

第6学年2組 社会科学学習指導案

1 日 時 令和6年1月24日(水) 第5校時(14:00~14:45)

2 学年・組・場所 第6学年2組 35名

3 単 元 名 「地球規模の課題の解決と国際協力」

4 単元について

(1) 単元観

本小単元で主に扱う内容は、学習指導要領には以下のように位置付けられている。

(3) グローバル化する世界と日本の役割について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。

(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。

本小単元は、世界規模の課題解決に取り組む事例に着目して問題解決に向けて、平和な世界の実現のために活動している国際連合の重要性、国際社会における日本の役割、世界の国々が協力して取り組んでいく必要性を理解できるようにするとともに日本が国際社会において果たしている役割を考え、表現していくことが目的である。さらに、学習したことを基にして、国際社会においてよりよい社会にしていくために自分にはどんなことができるかを選択・判断して考えていく活動を通して、社会生活に生かそうとする態度を養っていく。

まず、世界で活躍した医師の中村哲さんの活躍に着目して、世界の平和や環境を守るための取り組みやその取り組みに日本はどのように関わっているのだろうかといった単元を通じた学習問題を立てる。次に、国際連合の補助機関の一つであるユニセフの活動内容や国際連合の働きを学習することを通して、地球規模で発生している課題の解決に対する世界の取り組みについて理解を深めていき、その中で日本も重要な役割を果たしていることを捉えていく。さらに、世界の環境問題をはじめとした諸課題について調べ、その解決に向けて、国際社会の一員として国際協力を行う必要性や、国際連合が採択した持続可能な開発目標(SDGs)の達成を目指すことの重要性を捉えていく。最後に、よりよい社会にしていくために持続可能な開発目標(SDGs)を手掛かりにして自分ができることを考えていくという展開になっている。

(2) 単元の位置付け

3年 店ではたらく人と仕事

消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人の仕事に見られる工夫を考える。

4年 国際交流がさかんなまちづくり

特色ある地域の位置や自然環境、人々の協力関係、国際交流に取り組む地域などに着目して、地域の特色を考える。

5年 これからの食料生産

外国との輸入に着目して、食料生産が国民生活に果たす役割を考える。

日本の工業生産と貿易・運輸

外国との貿易や運輸に着目して、貿易と運輸の役割を考える。

6年 1～2学期の歴史の学習

当時の世界との関わりに目を向けながら世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史の展開を世界の関わりを踏まえながら考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考える。

本単元

地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考える。

日本とつながりが深い国々

外国の人々の生活の様子などに着目して、国際交流の果たす役割を考える。

グローバル化への対応という観点で、3年生では「外国との関わり」、4学年では「国際交流」、5年生では「国民生活に果たす役割」・「貿易と運輸の役割」ということを学習してきた。6学年では、1～2学期の「歴史」の学習で当時の世界との関わりについて学習してきた。本単元は、これまで取り組んできたものを総括して「国際社会において我が国が果たしている役割」について捉えるという位置付けになっている。

(3) 児童観

アンケート実施 対象6年2組33名（欠席者2名） 実施月7月・12月（いずれも最終週）

質 問 項 目		7月結果 はいと答えた人の人数・割合	12月結果 はいと答えた人の人数・割合
社会の学習は好き（楽しい）ですか		23名（69.7%）	25名（75.8%）
社会の学習で好きな活動は（複数回答）	調べた内容をノートに書く	17名（51.5%）	20名（60.6%）
	黒板に書かれている内容をノートに書く	20名（60.6%）	13名（39.4%）
	地図帳ゲームやフラッシュカードを行う	18名（54.5%）	16名（48.5%）
	資料や映像を見る	19名（57.6%）	14名（42.4%）
	自分の考えを書く・まとめる	7名（21.2%）	8名（24.2%）
	クラスメイトと話し合う・発表する	11名（33.3%）	8名（24.2%）
集合知を行うことは好きですか		23名（69.6%）	26名（78.8%）
集合知の学習で歴史の学習は深まると思いませんか		29名（87.8%）	32名（97.0%）
社会の勉強は将来役に立つと思いませんか		30名（90.9%）	32名（97.0%）

1学期終了時から2学期終了時のアンケート結果を見ると、全体の傾向として社会科に対する関心や意欲は、概ね上昇してきていると言える。授業の始めに取り組んでいる地図帳ゲームやフラッシュカードに対して、「問題に早く答えたい」という姿勢や、「答えられなかった所は自主学习で復習してくる」といった声も出ている。これまでの学習を通して、教科書や資料集などの資料を見て調べ活動を行う際には、黒板に書かれた内容をただ写すだけではなく、調べた内容をノートにびっしり書いたり、自分にとって必要な情報を取捨選択しながら書いたりすることができるようになってきた。年間を通して社会科の学習で学ばせたいことは、フラッシュカードや黒板に書かれている内容をノートに書くことではなく、資料を活用することで情報を集め、解釈して自分の考えをまとめるということである。これらの観点で見えていくと、集合知（指導観にて説明）の学習が子ども達の変化に影響を与えていると考える。

しかし、「自分の考えを書く・まとめる」、「クラスメイトと話し合う・発表する」という活動は、社会科に限らず、苦手意識がまだまだ強いように感じる。これまで、自分の考えを書いたり、まとめたりする時にはキーワードを学級全体で確認し、自分が調べた内容と関連させて書いていくことで、少しずつではあるが表現する力が付いてきている。一方、クラスメイトと話し合う・発表するという活動に関しては、恥ずかしい、自信をもてないという思いが根強いのではないかと考える。この状況に対して4月からレクリエーションや小グループ（3～4名）での話し合い活動、集合知（全員で行う調べ学習、質疑応答）という学習活動を通して自分の意見を言うことに少しずつ前向きになっている様子が見られる。

外国との関わりについては、各時代に各国と交流することで日本の文化の発展に大きく影響を与えたこと、他国との争いや戦争を通じて歴史を学ぶ意味を考えてきたこと、国際連合に加入・東京オリンピック・パラリンピック開催といった平和に向けて取り組んできたことなど、これまでの歴史の学習から外国は児童にとって関係のある存在という認識はもっている。

9月に「国際交流・国際協力とは何ですか、思いつくものを書きなさい」というテーマでアンケートを取った。子ども達の中には、国際交流とは、「国と国の交流・文化の共有」、国際協力とは、

「国と国の協力・貿易の協力」といった内容が挙げられた。このことから「国際交流・国際協力」について多くの児童が文字からの解釈のみで理解が浅いということがわかる。

またSDGsについては、5学年で学習経験があり、SDGsの基本的な内容は理解している。さらに、自分達にもできることを国語で行い、資料を用いて説明する学習を行った。今回は、社会科で得た知識を含めて、より広い視野で考察できることを期待したい。

(4) 指導観

①単元の入替え

アンケート結果を受けて、「国際交流」・「国際協力」について具体的な内容を知っている児童は全くいないということが分かった。そのため、まずは、どのような組織があり、どんな取り組みをしているのか知識の構築をしていく必要があると考える。さらに、この単元は「世界」、「日本」、「自分」といった非常に幅広い視野で学習内容を捉えていかなければならない。単元の学習が終わった時に、児童が国際社会についての知識を定着させ、学習したことを基に自分の考えをもてるようにするために、段階的な学習計画を立てる必要があるのではないかと考えた。〈1〉地球規模の課題を取り上げ、その課題解決のためにどのような取り組みをしているかの予想・学習問題の立案、〈2〉ユニセフや国際連合といった「世界」の取り組みについて、〈3〉NGOとODAなどについて、〈4〉世界で活躍する「中村哲さん」の取り組みについて、〈5〉JICAについて・「座間市」在住の元JICAの高村さんについて、〈6〉「座間市」在住の元JICAの高村さんの講話、の順番で学習していく。その次に、これまでの学習を基にして、〈7〉座間市のSDGsについて知り、自分のできることを考えていくという単元計画を立てた。このようにして、**世界→日本(国)** **市** という順番で学習していく。さらに、座間市のSDGsを扱うにあたり、2学期に「総合的な学習の時間」で国や県のSDGsについての調べ活動を行っており、SDGsについての理解を深めた状態で本小単元に臨んでいる。SDGsについて、**日本(国)→神奈川県(県)→市** という順番で学習してきた。このように、自分にとって少しずつ近い内容に取り組んでいくことで、より自分事として捉えることができ、国際社会において、よりよい社会にするためにはどうすればよいのか考えやすくなるのではないかと考えた。

②一枚ポートフォリオ評価(OPPA)の活用

一枚ポートフォリオ評価(OPPA)というワークシートを、授業を振り返ったり、単元を通して何を学んだかを捉えさせたりするために年間を通して活用している。内容は、主に単元の学習前・後に記入する単元を貫く本質的な問い(学習課題)と振り返り(学習課題に対して今日の授業で重要だと思ったこと)である。学習課題の例として、「大陸に学んだ国づくり」の学習では、単元学習前に「なぜ大仏がつくられたのでしょうか。」という問いにこれまでの知識を基に自分の考えを書かせ、単元終了後に「なぜ大仏がつくられたのでしょうか。また、どのような時代背景があつて、だれがどのようにしてつくったのでしょうか。」といった問いを提示し、児童の学習の理解度を測った。単元によって、座標軸やYチャートなどの思考ツールも取り入れて学習課題に取り組んできた。本単元では、「地球では、様々な大きな問題が起こっています。人々は、どんな取り組みをしていると思いますか。また、あなただったらどのような取り組みができると思いますか。SDGs 17の目標を取り入れて書きましょう。」という学習課題を1/10時間目が終了した時点に書かせる。8/10時間目では、「あなただったらどのような取り組みができると思いますか。」という学習課題に対して座標軸(持続性、参画力)を活用して考え、〈取り組みたいこと/SDGsのどの目標か〉、〈ど

んな取り組みか)、〈身近な生活への影響〉という項目に取り組む。本時である9/10時間目では、〈クラスメイトの考えを取り入れてみましょう〉、〈授業を受けて、自分の考えは変わりましたか。また、その理由も書きましょう。〉という項目に取り組むことで学習課題に対する考えを深めていくという展開を設定した。また、授業終了時に記入する、学習課題に対して今日の授業で重要だと思ったことでは、タイトルも書かせてきた。一言で学習した内容を表現することで、よりまとめる力が付くと考えたためである。ポートフォリオの取り組みは、「自分の考えを書く・まとめる」が苦手な児童にとって、授業を受ける目的意識が上がるとともに文章のキーワードを探したり、文章をまとめたりするための力を育てる手立てであると考えた。

③集合知（全員で行う調べ学習、質疑応答）

3月で卒業する児童にとって、教員主導ではなく、自分達で主体的に課題に取り組む姿勢の育成は非常に重要なことであると4月当初から抱いており、集合知という学習方法で主体性を高められるのではないかと考え、繰り返し取り組んできた。「集合知」とは、学級全体で行う調べ学習である。まず、学習課題に対し、個人で情報を集める。次に、黒板に情報を書き出し、書かれた情報への質問を考える。質問は、①なぜ、②誰が、③なにを、④いつ、⑤どこで、⑥どのようになどの質問ワードを駆使して考えさせる。その後、児童同士で質疑応答を行う。質疑応答では、質問された児童は資料を根拠として質問に答えさせ、想像や予想のような不確定な答えを認めず、全員で明確に追究させる。また、答えられない場合は、答えられる児童が答えることで、全員が質疑応答の場に属し、情報共有できる環境を設ける。授業の最後には、全体でキーワードを確定し、個人でポートフォリオにまとめる。このような取り組みから、課題に対して、どんなことを調べればいいのかを共有でき、資料活用の仕方も学ぶことができる。年間を通して、クラス全体で主体的に課題を解決する力を育てることを意図した手立てである。

本単元では、1時間目で「地球規模の課題」について、2・3時間目での「ユニセフや国際連合の働き」について、本時での「自分達にできること」について情報を増やす場面で集合知を用いていく。また、本時での「自分達にできること」については、質問に答えられなかった時、「誰かアドバイスはありますか。」といった助言も出させるようにしていきたい。この時の助言もこれまでの学びや教科書、その他の資料を根拠として行わせたい。

④「つかむ・追究・まとめる」学習過程

「つかむ場面（1時間目）」では、集合知で地球規模の課題について理解していく。個人で資料から情報を収集した後に、クラスメイト同士で共有していき情報量を増やしていく。その後、集合知の活動を通して、地球には深刻な課題が数多くあることに気付かせる。このことに対して、児童に「たくさん大変な問題を世界の人達は放っておいているのかな。」と投げかけ、単元を通じた学習問題を立てていく。

「追究する場面（2～9時間目）」では、2時間目と3時間目でユニセフと国際連合のことについて集合知を行う。これは、ユニセフは国際連合の補助機関であり、国際連合の働きと関係があるため、2時間目でこれらについての情報を収集し、3時間目で集合知を行うことでより知識の定着を図れると考えた。4時間目では、NGO、ODA、JOCVの活動やSDGsに関する活動といった国際協力の必要性や持続可能な社会を目指すことの重要性を理解していく。5時間目では、世界で活躍する「日本人」の取り組みで医師の中村哲さんについて学習していく。6時間目で、JICAについて・「座間市」在住の元JICAの高村さんについて学習し、7時間目で、高村さんをゲストティーチャーとしてお招きして、講話を聴く。ゲストティーチャーを招いた理由は、児童が住んでいる「座間市」在住

の方の話を聴くことで「自分でも国際協力ができるのではないか・やってみよう。」という思いを育んでもらいたいという意図からである。8時間目では [] の SDGs に触れていき、自分でできることを考えていく [] の SDGs については、「ぎま未来プラン」を活用し、施策について紹介していく。紹介された施策が SDGs 17 のどの目標に該当するかをクイズ形式にして考えていく。この取り組みには、市の取り組みと SDGs を繋げていくという意図がある。その後、国際社会において、よりよい社会にするために自分ができることを考えていくが、その際、SDGs 17 の目標から自分が行えそうなことを1つ選択して取り組ませる。9時間目の本時では、考えた内容を黒板に書いていき、集合知の形で自分の考えを広めていく。このように、世界→日本(国) [] →自分という順番で授業を展開していく。

「まとめる場面(10時間目)」では、これまでの授業の終わりに書いてきたポートフォリオやノートを振り返らせながら、ポートフォリオの学習課題の内容をまとめていく。

5 単元目標

- ・グローバル化する国際社会における日本の役割について理解するとともに、教科書や資料集、各種の資料で調べ、まとめることができる。(知識及び技能)
- ・地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや日本の国際協力の様子を捉え、国際社会において日本が果たしている役割を考え、表現している。
(思考力・判断力・表現力等)
- ・国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを見つけようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて教科書や資料集、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや日本の国際協力の様子を理解している。	①地球規模で発生している様々な課題に着目し、その解決のために世界や日本はどのような取り組みをしているのか予想し、表現している。 ②地球規模で発生している課題解決に向けてユニセフや国際連合の働きに着目して、日本が国際社会において果たしている役割を考え、表現している。 ③国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを選択・判断して適切に表現している。	①地球規模の課題とその課題解決、国際協力について関心をもち、主体的に調べようとしている。 ②国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを考えようとしている。

時間	ねらい	○主な学習活動 ・学習内容	□資料	評価方法と【評価規準】
1	地球規模で発生している課題を調べ、人々がどのように取り組んでいるか着目して、学習問題をつくることができるようにする。	○現在、世界で起きている課題を調べ、課題をどのように解決しようとしているのか予想し、学習問題をつくる。 ・世界の様々な課題 ・学習問題の設定	□地球規模で発生している課題についての資料 □ワークシート（ポートフォリオ）	「地球規模で発生している様々な課題に着目し、その解決のために世界や日本はどのような取り組みをしているのか予想し、表現しているか」を評価する。 <u>発言・ワークシート</u> 【思-①】 「地球規模で発生している課題とその課題解決、国際協力について関心をもち、主体的に調べようとしているか」を評価する。 <u>発言・ノート</u> 【態-①】
2・3	ユニセフや国際連合について調べ、それらの重要性や国際協力の必要性、日本の果たしている役割を考え、表現できるようにする。	○世界の子供たちの健康や安全を守るユニセフの働きについて調べる。 ・ユニセフの働き ・子どもの権利条約 ○世界の人々の平和と安全を守る国際連合の働きについて調べる。 ・国際連合の働き	□教科書P260～P263 □資料集P128 □ワークシート（ポートフォリオ）	「地球規模で発生している課題解決に向けてユニセフや国際連合の働きに着目して、日本が国際社会において果たしている役割を考え、表現しているか」を評価する。 <u>発言・ワークシート</u> 【思-②】 「地球規模の課題の解決に向けた取り組みについて関心をもち、主体的に調べようとしているか」を評価する。 <u>発言・ノート</u> 【態-①】

4	<p>NGOやODA、SDGsなどについて調べ、国際協力の必要性や持続可能な社会を目指すことの重要性を理解できるようにする。</p>	<p>○世界の問題を解決するための取り組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非政府組織（NGO）の活動 ・政府開発援助（ODA）の活動 ・青年海外協力隊（JOCV）の活動 ・持続可能な開発目標（SDGs）に関する活動 	<p><input type="checkbox"/>教科書P264～P267</p> <p><input type="checkbox"/>資料集P129</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシート（ポートフォリオ）</p>	<p>「地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて教科書や資料集、各種の資料で調べて国際協力の必要性や持続可能な社会を目指すことの重要性を理解しているか」を評価する。</p> <p>発言・ノート・ワークシート</p> <p>【知－①】</p>
5	<p>世界で活躍した日本人の活動に着目して、国際社会の一員として、日本人も深く関わっていることを理解できるようにする。</p>	<p>○中村哲さんについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中村哲さんについて 	<p><input type="checkbox"/>教科書P256～P259</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシート（ポートフォリオ）</p>	<p>「世界で活躍した日本人の活動から、日本の国際協力について理解しているか」を評価する。</p> <p>発言・ノート・ワークシート</p> <p>【知－①】</p>
6	<p>世界で活躍する座間市の方の活動に着目して、国際社会の一員として、自分の身近な人も深く関わっていることを理解できるようにする。</p>	<p>○JICAについて知るとともに座間市在住の元JICA（国際協力機構）の高村さんについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICAについて ・座間市出身の元JICAの高村さんについて 	<p><input type="checkbox"/>ワークシート（ポートフォリオ）</p>	<p>「世界で活躍する座間市の方の活動から、日本の国際協力について理解しているか」を評価する。</p> <p>発言・ノート・ワークシート</p> <p>【知－①】</p>
7	<p>ゲストティーチャーの話を聴き、国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、自分達にできることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>○座間市在住の元JICAの高村さんの話を聴き、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICAに入ろうとした理由 ・どんな気持ちで活動していたか 	<p><input type="checkbox"/>ワークシート（ポートフォリオ）</p>	<p>「国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを考えようとしているか」を評価する。</p> <p>発言・ワークシート</p> <p>【態－②】</p>

<p>8・9 【本時】</p>	<p>座間市のSDGsの取り組みについて知り、国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、自分達にできることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>○座間市の施策がSDGs17の目標のどれにあたるかクイズを行う。 ・座間市のSDGs</p> <p>○SDGsの観点で、国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、自分達ができることを考える。</p> <p>○集合知（児童が考えた内容を提示し合い、質疑応答）を行う。</p>	<p>□ざま未来プラン □SDGsの資料 □ワークシート（ポートフォリオ）</p>	<p>「国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを選択・判断して適切に表現している。」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">ワークシート 【思-③】</p> <p>「国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを、他者と共有しながら考えようとしているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">発言・ワークシート 【態-②】</p>
<p>10</p>	<p>学習した内容を整理し、学習問題についてまとめることができるようにする。</p>	<p>○世界の問題の解決に向けた活動・世界の平和や環境を守るために協力することの大切さ・国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、自分達にできることなどについて文にまとめる。</p> <p>・学習問題に対するまとめ</p>	<p>□ワークシート（ポートフォリオ）</p>	<p>「国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを選択・判断して適切に表現しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">ワークシート 【思-③】</p> <p>「国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを、他者と共有しながら考えようとしているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">発言・ワークシート 【態-②】</p>

学習過程【学習問題をつかむ】1時【学習問題を追究する】2・3・4・5・6・7・8・9時
【まとめる】10時

8 本時の学習（9／10時間）

（1）本時の目標

国際社会の一員として、身近な生活におけるよりよい社会づくりのために自分達ができることを、他者と共有しながら考える。

（2）実現状況を判断する際の具体的な子どもの姿と、目標実現を目指すための手立て

観点名	十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	努力を要する（C）と判断した児童への具体的な手立て
む 主体的に学習に取り組む態度	国際社会の一員として、身近な生活におけるよりよい社会づくりのために自分達ができることを、他者と共有しながら、目的や場面、改善点など具体的に考えようとしている。	国際社会の一員として、身近な生活におけるよりよい社会づくりのために自分達ができることを、他者と共有しながら考えようとしている。	黒板に板書されている質疑応答の内容を見て、何が自分の考えに取り入れられそうか、1つずつ確認していく。

(3) 本時の展開

学習活動 発問 (○) 反応 (・)	指導上の留意点(●) 評価規準と【評価規準】(◇)
<p>1 SDGsフラッシュカードを行う。</p> <p>2 前時でどんな視点で、生活の中で自分達にできることを考えたか確認する。</p>	<p>●代表の児童が問題を出すことにより子ども達中心で授業をつくっているという意識を高めさせる。</p> <p>●テンポよく行うことで児童の学習に対する集中力を高めさせる。</p> <p>●「安心」・「安全」・「安定」・「健康」・「平等」・「心身の充実」の6つの視点であったことを確認させる。</p>
<p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>国際社会の一員として、生活の中で自分達にできることを深く考えよう。</p> </div> <p>4 前時で考えた生活の中で自分達にできることを黒板に書いていく。</p> <p>5 質問内容を考える。</p> <p>6 集合知（質疑応答）をする。 Q：なぜ、誰もいない部屋の電気を消そうと思ったのですか？ A：これは、SDGs目標13の「気候変動に具体的な対策を」につながります。むだな電気を消すと電気の節約になり、電気の使用量が減れば、地球温暖化を防ぐことができるからです。</p>	<p>●「深く」とは、質疑を通し、自分の考えを、より多角的・多面的に捉え、取り組みの根拠や内容が充実することと定義付けをする。</p> <p>●黒板を見て他の児童に対する質問を考えさせておく。</p> <p>●なぜ、なにを、いつ、だれ、どこ、どのようにという質問項目を与えることで質問を考えやすくさせる。</p> <p>●前時で考えた自分の考えを深めることを目的に行うため、参考になる情報を必ずメモさせながら質疑させる。</p> <p>●質問された際、国際社会の一員という意識付けをするために、SDGs17の目標のどの項目なのか述べてから答えさせる。</p> <p>◇「国際社会における日本の役割や取組を踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを、他者と共有しながら考えようとしているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">発言・ワークシート【態-②】</p>

7 授業の感想を書く。

○質疑応答を通して、自分の考えに変化はありましたか。

●前時で考えた自分の考えに付け足せることを書かせる。

●変化がなかった場合は、その理由を書かせる。

●早く書けた児童に発表させる。

◇「国際社会における日本の役割や取り組みを踏まえ、よりよい社会づくりのために自分達ができることを、他者と共有しながら考えようとしているか」を評価する。

ワークシート【態-②】

(手立て)

黒板に板書されている質疑応答の内容を見て、何が自分の考えに取り入れられそうか、1つずつ確認していく。